

## モラル

私の故郷の福岡では、小6の修学旅行は長崎に行くことが多いです。平和学習をすることが目的です。若い頃から5、6年生ばかり担任してきた私は、殆ど毎年長崎に行っていました。校長になっても勿論それは続けました。

「長崎は今日も雨だった」の歌の通り長崎はよく降ります。ある年の修学旅行の日も1日降り続けました。

この雨の中でも、子どもたちは、平和祈念像の前で、全校の子どもたちで作った千羽鶴を納め、平和への呼びかけをしました。たくさんの学校が来ていてそれぞれが呼びかけをしたり歌を歌ったりしていました。



しかし、子どもたちがこのような学習をしているにもかかわらず、びっくりすることも目にしました。大人のモラルです。高速道路の路肩やサービスエリアの花壇等にゴミが沢山投げ捨てられていました。観光地にもありました。

色々な国の人たちもやってきています。「一事が万事」こんな様子を見ると「日本って、こんな国なんだなあ」「モラルの低い国なんだなあ」と思うでしょう。

沢山の学校が昼食をするお土産店では、ある学校を引率する添乗員が集合の合図をしていましたが、何と集合場所が店の入り口。入ってくる人も出て行く人も沢山いるのに、迷惑だと思わないのかなあと思いました。

「自分さえ良ければいい」と大人がそういう行動や言動をすると、子どもはその通りにします。その子どもが大人になったら、また同じようにして、その繰り返しで世の中みんなそうになったらぞっとします。

シンガポールでは、ゴミを投げ捨てたら罰金を取られたり逮捕されたりする場合もあるので街はとてもきれいです。でも、そんな規則がなくても自ら律することができるのが日本人の良いところだったはずですが。

その頃「モラル」についての記事が雑誌に載っていました。残念ながら、この後お亡くなりになった俳優の児玉清さんへのインタビュー記事でした。児玉さんは、理想の上司像としても人気があった、格好良い紳士でしたね。



## ちょっといい話

## 品を感じる人

児玉清氏へのインタビュー



### ●今、品という言葉が注目されていますが、何かお感じになることは？

最近特に感じることは、モラルのない大人が増えたということです。禁止されているのを知りながら河川敷でゴルフをする。粗大ゴミを山の中に捨てに行く。誰も見てないから何をしてもいい。自分さえ良ければ他人に迷惑をかけてもいい。そんな人には、品性のかけらも感じるできませんね。

マナーという言葉がしきりに叫ばれていますが、昔はそんな言葉などなくても、皆が自らを律していました。他人に迷惑をかけることは恥ずかしいこと、恥を知らないことは品がないことだと思っていたものです。

### ●どうしてそういう人たちが増えてきたのでしょうか？

一つには、自分自身を第三者の目で見るができなくなったからではないでしょうか。自分の姿を他者の目で客観的に見ること。これはとても大切なことで、小さいころから教えておくことだと思います。

今、自分がしていることが、人さまの目にどう映っているか。それは美しい姿であるのか、醜い姿であるのか。たとえ誰も見ていないとしても、自分の心の目で自分の姿をしっかりと見ることができる人。そういう人が品のある振舞いをするのだと思います。

そしてもう一つは「らしさ」というものが失われてきたように思います。よく人間らしくあれという言い方をします。それは一見心地よい響きですが、とても曖昧模糊としています。人間らしくあるのは当たり前です。それだけではなく、社会の中で自分はどのような「らしさ」をもって生きていくのかが大切なのです。そしてそれは、他人から強制されるものではありません。周りからそんなふう決められるのではなく、自分自身が「らしさ」を考え、自分で自分を持するということだと思います。

一人前の大人であるならば、大人らしい行動とは何かを常に考える。一人の社会人として、しっかりとしたモラルを持つ。そういう「大人らしさ」が身につけていけば、河川敷でゴルフをすることはできません。常に客観的に自分を見ることのできる人は、山にゴミを捨てるのが恥ずかしいと思うものです。そしてそういう「らしさ」を持った大人を見ることで、子どもたちは健全な心を身につけていくのだと思っています。

